



2011～2012 年度
国際ロータリー会長

カルヤン・パネルジー

Weekly Report Niigata



心の中をみつめよう
博愛を広げるために

2011～12 年度 国際ロータリーのテーマ



2011～2012 年度
新潟ロータリー会長

佐藤 紳一

新潟 RC 2月第4例会 (2012.2.28) No.2934

(1) ロータリーソング「それでこそロータリー」斉唱

(2) 佐藤 紳一会長挨拶

今年はうるう年です。太陽暦では4年に1回、太陰暦では5年に2回、1年の月数を1月多くし、同じ月を繰り返すようですがよくわかりません。サモア諸島では日付変更線を西から東へ移動して調整するそうですが、もっとわからないことです。また、うるう年は米国大統領選挙の年であり、オリンピックイヤーです。26日の東京マラソンでは藤原新(30歳・東京陸協)がほぼロンドン行きの切符を手にいれたでしょう。

秋冬に海岸沿いの松林に来る渡り鳥はジョウビタキ、ミヤマホオジロ、カシラダカ、マヒワ、ミソサザイ、ベニマシコ、アカゲラ、アオゲラなどがいます。これらの中に毎年冬場に市街地や海岸にカラスの大群が押し寄せます。これらは朝鮮半島からの渡り鳥であるミヤマガラスといい、10月下旬から翌年3月下旬頃まで新潟市とその近郊で越冬します。平野部の田んぼなどで過ごし、1000羽以上の大群になることもあります。クチバシがやや白っぽく、ねぐら入り(夕方)前に大集団を形成するため、住民に違和感や恐怖感を与えます。鳴き声や排泄物による衛生被害も生じています。1990年以前までは珍しい鳥でしたが、近年では毎年冬に大群が見られ、珍しくなくなってしまいました。カラスの行動は全て生きるためでありますが、住民は憤慨しています。ただカラス自身はカラスの勝手でしょ!と思っているのでは。

福島の話。シジュウカラガンは環境省のレッドデータリストで、ごく近い将来野生で絶滅の危険性が極めて高いとして絶滅危惧1A類に指定されている小型のガンの仲間です。一時日本ではほとんど見られなくなったが、繁殖地のロシアと日本が協力し、飼育下で繁殖させ、放鳥するなどしました。その保護活動によって、昨シーズンは日本への飛来数が100羽を超えるまで回復しています。福島潟に飛来するのは6年連続で、昨シーズンは40羽の群れが確認されています。カモに比べて大型なガンの仲間は多くが絶滅の恐れがある鳥に指定されていますが、ガンの仲間にとって福島潟は格好の越冬地のひとつになっています。

3月はロータリーカレンダーでは識字率向上月間です。1ヶ月ゆっくり考えてみましょう。

最後になりますが誰よりも1番東日本のこと、国民のことを思っている方の手術が成功したこと。「ヤンチャ」な私ですけど、喜ばしく思います。

(3) 委員会報告

・宇尾野 隆次年度幹事より次年度組織表配布、ご協力
のお願い

・石井 和弘ロータリー財団委員長より地区財団セミナー報告

当クラブの「交通遺児と家族の為の事業」に、ロータリー財団補助金が承認されUS \$ 800 が支給される。

(4) 会員スピーチ「LED照明とはどんなものか？」

㈱ユアテック新潟支社 支社長 石井 英明君

3月6日の例会予定

会員スピーチ「厳しさ増す日本鉄鋼業」

新日本製鉄㈱新潟支店長 宮木 勢

ホームページを更新致しました！

新潟ロータリークラブ ホームページアドレス

<http://www.niigatarc.jp/>